

案件名	越前市食と農の創造ビジョン(案)について
主旨	本計画は、条例に基づき、本市の食と農の基本的な方向性を示すマスタープランであり、基本構想に基づき基本計画の改定を行う。また、新たに策定した市総合計画をはじめ、国の「みどりの食料システム戦略」、県「次世代へつなぐ、希望あふれるふくいの食・農・環境計画」等との整合性を図ること、また、従来からの生物多様性の確保に加え、食や農が果たす温室効果ガス削減という概念を盛り込み、この点からも計画を修正する。
意見提出者数 (件数)	パブリック・コメント 35件 ワークショップ、アンケートその他の意見 7件 議会 28件 合計 70件

No	該当する箇所	意見徴収方法	意見の要旨	越前市の回答
1	P10 1食育の推進	パブリック・コメント (20代)	子供に対する食育はしつかり行っているが、高齢者や他の年代に対する食育は行わないのか。	市福祉部局で、高齢者の健康づくりの一環として、また、中高年の生活習慣病予防対策として計画に基づき望ましい食のあり方の普及活動を展開しています。
2	P10 2食育の推進	パブリック・コメント (20代)	若者のやせ問題や高齢者のフレイルなどの問題について取り組まないのか。	市教育委員会や福祉部局において取り組んでおります。
3	P10 3食育の推進	パブリック・コメント (20代)	貧困世帯への食支援はからだところを育む潤いのある食の実現を目指すためには基本的施策に加えてもよいのではないのか。	福祉部局の地域福祉計画や市社会福祉協議会などの計画に、貧困対策が基本的な施策のひとつとして位置付けられ、具体的な事業が展開されています。
4	P10 4食育の推進	パブリック・コメント (20代)	・無農薬農業に対して、ものすごく力を入れているようなので、農業体験を小学生などが行うのはとても良い。 ・子供は体験してきたことを素直に親に伝えるので、自然と親にも無農薬の良さや、何をしているのか、越前市では何を作っているのか興味が出てくるのでは。 ・子供は、いろんなことを経験することで人生を豊かにできるのでは。 ・体験しないと、大人になったときの進路選択でまず選択肢に入らないなどに触れる必要があるのではないのか。	子どもが直接、農業体験をすることの意義は特に重要ですので、コウノトリを育む白山地区などでは、地区外のファミリー層などを対象に、無農薬無化学肥料米を作る農業体験を継続的に実施しています。また、他の地区においても、小中学校で黒米や赤米などの古代米を栽培する農業体験も実施しています。

No	該当する箇所	意見徴収方法	意見の要旨	越前市の回答
5	P10 5食育の推進	パブリック・コメント (20代)	越前町の小学校では、野菜の育成をし、調理を行うという食育体験があった。また、自生している植物を観察し、食べられるものは食べてみる(ヨモギ、銀杏、ほうばなど)米作りも体験。昔の話などを聞く機会等、様々な食に関する体験があった。給食では行事や郷土料理の献立を50回以上提供され、それに関係する仲介業者、農家の方々と情報交換ができています。越前市でも小さい時からこういった体験する機会を増やして食に関する興味をもってもらったらどうか。	今後の食育推進事業の参考にさせていただきます。
6	P10 6食育の推進	産業建設委員会 (令和6年12月12日)	「SDGsの観点からも、持続可能な食を目指し、市民の食に対する意識改革が必要です。」ところ「意識改革」という強い表現としたのはなぜか。	温暖化の影響は深刻さを増し、その原因のひとつが私たちの食にあるとともに、このままでは安定的な食の確保も困難な事態となっていくことから、一人ひとりが危機感を持ち、日常の食に対しても意識を変えていただく必要があるため、変化ではなく改革としました。
7	P10 1(1)教育・保育を通じた食育の推進	パブリック・コメント (20代)	具体的に書いた方がわかりやすいのではないか。	具体は、次に続きます「事業一覧」において表記しております。
8	P10 1(1)教育・保育を通じた食育の推進	パブリック・コメント (60代)	早くからよりよい食習慣を身につけることは生涯にわたり健康で過ごすために重要。子どものころから豊かな食育や食生活習慣を身に着けているのではないのでは、大いに違いが出てくる。給食などを通して、市の農産物や県の伝統野菜を利用し、福井の食文化を伝え、地元農家を下支えしていくことが大切。また、有機農産物の利用を増やして、安全でおいしい給食の充実をぜひ具体的に進めてほしい。	市では、子どものころからの正しい食習慣の啓発をはじめ、地場野菜の活用や郷土料理の伝承など、広く食育の推進を図っております。学校給食についても、教育委員会とともに、有機農産物の使用など、質の向上に努めていきます。
9	P10 1(1)教育・保育を通じた食育の推進	産業建設委員会 (令和6年12月12日)	『幼少期から、食べることや食材の大切さや感謝の心を学び、生涯にわたり健全な食を選択できる力を育むことで、特に子どもの「食の自立」を促します。』のところ「食の自立」としたのはなぜか。	食には多面的な影響や効果があることから、自らが必要な食を考え、自分で選んでいくことが望ましく、「食の自立」という表現を使いました。
10	P10 1(1)教育・保育を通じた食育の推進	議会	『生涯にわたり「健全な食」を選択できる力を育むことで、特に子どもの食の自立を促します。』のところ「安心安全な食」としてはどうか。	ご意見のとおり修正させていただきます。ただし、本計画では、「安全安心」に統一しているため、「安全安心な食」とさせていただきます。

No	該当する箇所	意見徴収方法	意見の要旨	越前市の回答
11	P10 1(2) 家庭や地域における食育の推進	議会	「人口減少や高齢化が進む中、孤食が増える傾向にあります。」のところ、「単身世帯や夫婦のみの世帯、ひとり親世帯の増加や高齢化が進む中」としてはどうか。	ご意見のとおり修正させていただきます。「単身世帯、夫婦のみ世帯など少数世帯の増加や高齢化が進む中」とさせていただきます。
12	P10 1(2) 家庭や地域における食育の推進 1(3) 農業体験等を通じた食育の推進) P11 2(2) 消費者による地場産農産物の利用促進 3(1) 食品ロスの削減	第2回ワークショップ (令和6年12月3日) 消費者連絡協議会	SDGsの観点からも重要な事項であり、推進に賛同する。 エシカル消費の推進でもあり、大いに賛同する。	ご理解・ご賛同いただきありがとうございます。
13	P10 1(4) 多様な食文化に対応する食育の推進	パブリック・コメント (20代)	郷土料理の継承につながる食育の推進も行うとよい。	伝統食、郷土料理は、当地の伝統的農産物を使用し、地域文化とも密接に関係しているため、引き続き、郷土料理の継承について取組みを行っていきます。
14	P10 1(4) 多様な食文化に対応する食育の推進	議会	「地域に育まれてきたごはん食などの和食文化を尊重する一方、」のところ、「日本の主食であるごはん食などの和食文化」にしてはどうか。	ご指摘のとおり修正いたします。
15	P10 1(4) 多様な食文化に対応する食育の推進	パブリック・コメント (70代)	多様な食文化に対応する食育はいらないのでは。日本食の大切さを推進してほしい。	外国人市民が多く暮らす本市においては、多文化共生社会目指し、多くの取組みを進めています。食の分野においても日本食の良さについて継続して伝えていくとともに、日本食以外の多様な食文化を学び体験することも豊かな食育につながるものと考えております。

No	該当する箇所	意見徴収方法	意見の要旨	越前市の回答
16	P10 1(1)教育・保育を通した食育の推進 (4)多様な食文化に対応する食育の推進 P28 4(2)コウノトリをシンボルとした有機農産物・加工品のブランド化 P29 6(1)有機農業・環境調和型農業の推進 P41 2(1)里地・水辺の保全再生 P42 2(4)豊かな自然環境を通した学習の推進	第2回ワークショップ (令和6年12月11日) 坂口自治振興会	エコビレッジ交流センターは環境教育のほか米作り体験や他の農業体験など食育の場として充実させる。 設備の充実と指導員の研修への参加など専門家として育成に力を注ぐ必要がある。	エコビレッジ交流センターには、地域の農業や伝統に根差した食育の場としても期待していますので、必要なハード、ソフトの充実に努力してまいります。
17	P11 2(1)学校給食等へ地場産農産物の供給推進 (2)消費者による地場産農産物の利用促進 P11 3(2)フードマイレージの削減	第2回ワークショップ (令和6年12月11日) 坂口自治振興会	地域で収穫した農産物を市で買い上げ、地元の学校給食に提供する。	教育委員会では数値目標を定め、地場産農産物の使用を進めております。
18	P10 2地産地消による地域農業への支援	パブリック・コメント (60代)	地産地消について、もう少し強い表現を望む。	市民の皆様のご理解と主体的なお取り組みを促す趣旨による表現ではありますが、具体的な施策においてフードマイレージの視点からも強く推進を図ってまいります。
19	P11 2(1)学校給食等へ地場産農産物の供給推進	パブリック・コメント (60代)	学校給食への食材(農作物)は、100%市産か。	給食で使用しているお米は、全て市内産特別栽培米(コシヒカリ)を使用しています。その他の食材については、可能な限り地元産の食材を使用するよう努めています。
20	P11 2(1)学校給食等へ地場産農産物の供給推進	パブリック・コメント (60代)	仕入価格を下げるために市外・県外産を使用しているが、ここは厳しく目を光らせるべき。	教育委員会では、可能な限り市産や県産などの地元産の食材を使用するよう努めています。
21	P11 2(1)学校給食等へ地場産農産物の供給推進	パブリック・コメント (60代)	市産農作物を使用する事によるコストアップは当然の対価として、生徒が負担すべき。	生産者には適正価格で農産物を販売できることが望ましいですが、給食の負担の在り方については、全国的な議論となっていますので、今後も注視していきます。

No	該当する箇所	意見徴収方法	意見の要旨	越前市の回答
22	PII 2(1) 学校給食等へ地場産農産物の供給推進	パブリック・コメント (60代)	フードマイレージの削減にも合致するものではないか。	ご指摘のとおり、地場産農産物の使用は、フードマイレージの削減に大きな効果があります。
23	PII 2(1) 学校給食等へ地場産農産物の供給推進	パブリック・コメント (60代)	コウノトリ米使用には、コストに見合うかどうか慎重に判断すべき。	コウノトリ米は安全安心の食材というだけでなく、生き物を育み、温暖化対策にもつながる点、消費者の皆様に訴求し、適正価格での売買を進めていきます。
24	PII 2(1) 学校給食等へ地場産農産物の供給推進	パブリック・コメント (20代)	栄養教諭による地場産農産物を利用した食に関する指導を促進するのが良い。	栄養教諭、管理栄養士、給食調理員は季節の地場産食材を活用した学校給食のあり方を研究し普及活動も精力的に展開しています。
25	PII 2(1) 学校給食等へ地場産農産物の供給推進	議会	「コウノトリ呼び戻す農法米をはじめとする有機農産物の導入に努めます。」のところ、コウノトリ呼び戻す農法米とJAS認証取得している有機農産物はイコールではない。	確かに認証機関が異なるため同一ではありません。しかし、農水省の「みどりの食料システム戦略」による有機農業の数値目標には、福井県認証特別栽培農産物①も含まれることから、本計画ではこれに準じ、コウノトリ呼び戻す農法米も有機米としています。記載については、「コウノトリ呼び戻す農法米のほか、有機農産物の導入に努めます。」といたします。
26	PII 3(1) 食品ロスの削減	パブリック・コメント (70代)	食品の買い過ぎを認めることになるので、フードドライブは推進すべきではない。	フードドライブは、購入した時と使用する時に事情が変わり、食品に余剰が生じる場合を想定しています。また、食品の買い過ぎを防ぐ啓発についても併せて行っています。
27	PII 3(3) 有機農産物とその加工品の利用促進	パブリック・コメント (20代)	有機農業も大切だと思うが、こればかりに力を入れない方がいいのではないかな。	有機農業が全体に占める割合は現時点で数%であり、90%以上が特別栽培や慣行農業でありますので、こちらも重要であると考えています。
28	PII 3(3) 有機農産物とその加工品の利用促進	パブリック・コメント (70代)	「ストレスのない食材」とはどんな食材のことか。	「身体に負担の少ない食材」という意味ですので、表記については、そのように修正いたします。
29	PII 3(3) 有機農産物とその加工品の利用促進	議会	「温室効果ガス削減や生物の多様性確保に寄与することを消費者に啓発するため、農林水産省の見える化ラベル等の普及に努めます。」のところ、「消費者に啓発するとともに」にしてはどうか。	ご指摘のとおり修正いたします。
30	P27	議会	『「たくましく自立する農業、環境に配慮した農業、生きがいとしての農業など多様な農業の実現」を図るため、次の施策を展開します』のところ、「有機農業などの環境に配慮した農業」としてはどうか。	ご指摘のとおり修正いたします。
31	P27 I 食料の安定供給	議会	「食料の安定供給」のところ、食料ではなく食糧である。	近年、国なども食料を使用していることから本計画でも準じております。

No	該当する箇所	意見徴収方法	意見の要旨	越前市の回答
32	P27 1(1) 食料の安定供給	議会	「土づくりや水管理等の基本技術に加え、高温環境下での耐性を持つ新たな品種を導入します。」のところ、「新たな品種の導入に取り組みます。」としてはどうか。	ご指摘のとおり修正いたします。
33	P27 1(3) 優良農地の安定確保	議会	「農地は食料生産の基盤である」のところ、食料ではなく食糧である。	近年、国なども食料を使用していることから本計画でも準じております。
34	P27 2(1) 新たな担い手の確保・育成	議会	『地域計画を基本に専門的に農業を営む認定農業者を継続的に育成し、市内の認定農業者で構成されるグループ「市認定農業者ネットワーク」の活動を推進します。』のところ、「推進」を「支援」としては。	ご指摘のとおり修正いたします。
35	P27 2(3) 多様な農業の推進	パブリック・コメント (60代)	小規模農業者や家族農業の果たす役割のもう少し強い表現を望む。	農業の後継者不足が深刻な課題となっている中、ご指摘の方々(小規模農家や家族農業)について「農地を保全する観点から、地域農業において小規模農業や家族農業は非常に重要な役割を果たしている農業者です」という表現とします。
36	P27 2(3) 多様な農業の推進	パブリック・コメント (60代)	農地集約化が進んだ地域は「農村コミュニティ」と「地域ぐるみの農村の保全活動」が、著しく低下しているが、これは次代の農業担い手が減少している原因のひとつでは。	農地の集積を進めた結果、農業経営基盤は強化されましたが、農村コミュニティを担う方々が減少し地域ぐるみの農村保全活動が減少していることは事実かと思います。
37	P27 2(3) 多様な農業の推進	パブリック・コメント (60代)	家族農業は収益性だけを求めているのではない。第3章で述べている理念を育てるには家族農業者と小規模農業者が必要。それがなければ第3章の目標は崩壊する。	農業の後継者不足が深刻な課題となっている中、ご指摘の方々(小規模農家や家族農業)について「農地を保全する観点から、地域農業において小規模農業や家族農業は非常に重要な役割を果たしている農業者です」という表現とします。(再掲)
38	P27 2(3) 多様な農業の推進	議会	「地域農業において、小規模農業者や家族農業の果たす役割や重要性を再認識するとともに、環境や技術・品質などにこだわった農業、また定年帰農業や市民農園、家庭菜園など誰もが生きがいを感じることができる農業を奨励します。」のところ、「小規模農業者」は「小規模農業」、「定年帰農業」は「定年帰農」としてはどうか。	ご指摘のとおり修正いたします。

No	該当する箇所	意見徴収方法	意見の要旨	越前市の回答
39	P27 1(1)農産物の収量確保(2)水田フル活用の推進 P28 3(1)農地利用の集約化(2)農業基盤整備の推進 P29 5(1)農地の利用集積(2)優良農地の保全 P41 2(1)産地・水辺の保全再生 P42 2(2)里山の保全再生	第2回ワークショップ (令和6年12月11日) 坂口自治振興会	・農業施設老朽化や将来の維持管理等を考慮した農地整備が不可欠。関係者からなる農地整備委員会を開催する必要がある。 ・地区農業者による農業組織の再編成できるよう多様な取組みの検討が必要。 ・地区内の農業組織、認定農業者、兼業農家など全農業者による協議会が必要。 ・組織を運営するため、県、市、農協等の積極的な参加が必要。	今後、各地域の「地域計画」を推進する中で事情に合わせて具体的な解決策と探っていきます。
40	P27～30 農業全般	パブリック・コメント (60代)	・気候変動の影響を機会として捉える取組みの記載がないのでは。 ・地球温暖化が進んだ場合、新たな作物への転換、産地の育成など、気候変動がもたらす機会を活用することの検討が必要。 ・まずは、情報収集や研究機関との連携から始め、気候変動の適応策の方向性を探ってはどうか。 ・「気候変動への適応」を追加することが必要ではないか。	本計画では、「高温環境下での耐性を持つ新たな品種を導入する」ことについて言及し、県やJAとも連携しながら、取組みを推進していく予定です。
41	P28 4(1)米、園芸作物のブランド化	パブリック・コメント (60代)	「園芸については、スイカ、トマト、キュウリをはじめとした特産化、ブランド化を継続して推進します。」のところ、スイカをしらやま西瓜にしてはどうか。	ご指摘を受け、「園芸については、しらやま西瓜、紅しきぶ、緑しきぶをはじめとした特産化、ブランド化を継続して推進します。」と修正いたします。
42	P28 4(1)米、園芸作物のブランド化	議会	『本市農業の中心である米「越前しきぶ姫」や「コウノトリ呼び戻す農法米」のほか、園芸については、スイカ、トマト、キュウリをはじめとした特産化、ブランド化を継続して推進します。』のところ、「本市農業の中心である」を「本市農業のブランドである」、「スイカ」を「しらやま西瓜」にしてはどうか。また、「継続して」は削除しては。	ご指摘を受け、『本市農業のブランドである米「越前しきぶ姫」や「コウノトリ呼び戻す農法米」のほか、園芸についても、スイカ、トマト、キュウリをはじめとした特産化、ブランド化を継続して推進します。」と修正いたします。
43	P28 4(2)コウノトリをシンボルとした有機農産物・加工品のブランド化	パブリック・コメント (20代)	有機農産物を食育と関連させてみたらおもしろいのではないかと。	市では、食育の一環として、市内全小中学校の学校給食にコウノトリ米を提供しています。

No	該当する箇所	意見徴収方法	意見の要旨	越前市の回答
44	P29 6農業分野における環境負荷低減	産業建設委員会 (令和6年12月12日)	本市らしさをもっと出してほしい。農業の取り組みにおいても、環境負荷低減という施策のところ、本市らしい取り組みである「コウノトリと共生する農業」を加えてはどうか。	ご指摘を受け、4つ目の具体的施策として「コウノトリと共生する農業の推進」を追加する方向で審議会に諮ります。
45	P29 6(1)有機農業・環境調和型農業の推進	議会	「JAS認証や、県の認証を受けている特別栽培農産物を推進するとともに、県やJAと連携し技術の向上と普及を図ります。」のところ、「県の認証である特別栽培農産物」にしてはどうか。	ご指摘のとおり修正いたします。
46	P29 6(1)有機農業・環境調和型農業の推進	議会	「園芸作物についての補助を開始し、特別栽培農産物から有機農産物の生産へとつなげます。」のところ、「特別栽培農産物や有機農産物の生産へとつなげます。」にしてはどうか。	園芸作物の有機栽培も進める目的で、特別栽培から始め、有機農産物へと段階的に移行するケースを想定しているため、現在の表記のままとさせていただきます。
47	P29 6(3)認証マーク等による消費者への訴求	パブリック・コメント (70代)	「見える化ラベル」とはどういったものか。	農水省が進めている、温室効果ガス削減と生物多様性の維持を星の数で表すラベルで、環境に配慮している商品であることをアピールするためのものです。
48	P29 6(3)認証マーク等による消費者への訴求	パブリック・コメント (70代)	「みえるらべる」とは何か。認証マークではないのか。	「みえるらべる」は見える化ラベルの名称です。表記について検討し、注釈を付けます。
49	P35	議会	『「農を基盤とした豊かな自然環境と人と人が絆で結ばれた地域社会の実現」を図るため、次の施策を展開します。』に「～生きものと共生するコウノトリが舞う里づくり～」も入れること。	ご指摘のとおり修正いたします。
50	P41 1(4)農業・農村体験交流の展開	議会	農業・農村に限定せず、地域文化、環境全体を守り共存するのではないか。	第3章では、主に農村に限定した課題や取り組みを記しているため、農村地域を中心とした内容となっています。
51	P41 1(4)農業・農村体験交流の展開	議会	タイトルとサステイナブルツーリズムがつながるか。	訪れる側にも受け入れる側にも負担なく続けていける、持続可能なツーリズム、交流が必要であるため、サステイナブルツーリズムにつながると考えます。
52	P41 1(4)農業・農村体験交流の展開	議会	これまでのエコ・グリーンツーリズムの検証と展望は？	グリーンツーリズムについて、地域の皆様のご尽力により一定の成果が得られていることは承知していますが、今後は、さらに継続、持続していくよう、関係機関と連携し、関係人口や交流人口を増やす取り組みを進めていきます。

No	該当する箇所	意見徴収方法	意見の要旨	越前市の回答
53	P4 I I (4) 農業・農村体験交流の展開	議会	農村と都市の交流にオーバーツーリズムの害があるのでしょうか。	特にインバウンドの急増を受けて都市機能が不全となったり住民生活の平穏が害されたりしている例が国内各地で報告され、規制や課税に乗りだす例もあります。農村が普段の営みを送りつつそのことを尊重したツーリズムを求めています。 表記については、「オーバーツーリズムの反省から、訪れる人が、地域に住む人の営みに配慮しながら、豊かな自然や農のある暮らしを体験できるなど、持続可能なサステナブルツーリズムを推進します。」のところ「オーバーツーリズムの予防から」とさせていただきます。
54	P4 I I (4) 農業・農村体験交流の展開	パブリック・コメント (20代)	オーバーツーリズムの反省は、越前市の反省なのか国の反省なのか分からない。サステナブルツーリズムという言葉もなじみがなくて分かりにくい。	越前市ではこれまで反省すべき事案はありませんが、新幹線開業後、関東圏や外国からのアクセスが向上しているなか、他自治体の例は参考にしたいと考えています。サステナブル、持続可能性はすべての分野における重要なキーワードとなっています。言葉の説明は付記します。
55	P4 I I (5) 地域循環共生圏の形成	議会	農村が都市部に何を訴えて求めるのか。	主に農村部で行われている環境にやさしい農業や生態系を守る取組み、温暖化対策等に関し、都市部の皆様に理解や共感を得て、正当な価格での農産物の購入や農村を訪れていただくことで共生していこうとする考えであり、環境省が提唱しています。別途、注釈を付記します。
56	P4 I I (5) 地域循環共生圏の形成	パブリック・コメント (20代)	文章がよくわからない。経済活動により、環境に負荷をかけている都市部の人たちにどうやって食や農のある暮らしを請求するのか。	主に農村部で行われている環境にやさしい農業や生態系を守る取組み、温暖化対策等に関し、都市部の皆様に理解や共感を得て、正当な価格での農産物の購入や農村を訪れていただくことで共生していこうとする考えであり、環境省が提唱しています。別途、注釈を付記します。(再掲)
57	P4 I 2 (1) 里地・水辺の保全再生	議会	「市西部地域においては、既に自然繁殖を繰り返しているコウノトリが地域住民と共生していることを踏まえ、さらなる里地や水辺の保全再生を進めます」のところの「さらなる」とはどこを指すのか。西部地域か。市内への拡がりか。	白山、坂口地区の取組みは徐々に他地域に広がり、神山地区、王子保地区などにコウノトリが餌を求め飛来してきております。このため、コウノトリ呼び戻す農法部会への参画者やビオトープを取り組む農家も増えてきております。
58	P4 I 2 (1) 里地・水辺の保全再生	議会	「生き物が生息する水田退避溝や、休耕田ビオトープの設置を他地域へ波及します。」のところを「里地里山の取組みを他地域へ波及していきます。」としてはどうか。	ご指摘のとおり修正いたします。

No	該当する箇所	意見徴収方法	意見の要旨	越前市の回答
59	P41 1 農村コミュニティの存続 P42 3 中山間地での農業振興	第2回ワークショップ (令和6年12月11日) 坂口自治振興会	必要なことは書き出されているので、あとはいかにして実践に移すか。市に専門家を配置し、各地域で、地域や農家の意識を向上させることが大切。	県やJA、関係機関などと連携し、できるところから実践していまいります。
60	P27 2(2) 新規就農者の確保と育成 P41 1(1) 中山間地域の集落間における連携促進(2) 非農家を含めた地域ぐるみの農村の保全活動の維持推進 P42 3(3) 不作付地対策の推進	第2回ワークショップ (令和6年12月11日) 坂口自治振興会	自然環境豊かで有機栽培に適する、空き家もあり農業希望者の移住に適することをPRし、移住者や、農業従事者の増加を図る必要がある。	関係機関や観光部局とも連携しながら、農村部の地域資源についてPRを強化し、まずは関係人口や交流人口の増加を図ることから進めていきます。
61	P42 2(2) 里山の保全再生	産業建設委員会 (令和6年12月12日)	「杉林や松林など身近な里山、生物多様性の保全再生を図るため、山ぎわを伐採し鳥獣の出没を抑制する緩衝帯整備、竹林整備をする中で竹林を使ったメンマなどの加工品の製造・自然素材、和ハーブ等の野生植物の活用など、里山の適切な管理を推進します。」のところ、本市に松林はあるのか。ないのであれば記載するのはおかしい。また「里山の適切な管理に努めます。」としてはどうか。	ご指摘のとおり修正いたします。
62	P42 2(2) 里山の保全再生	産業建設委員会 (令和6年12月12日)	「杉林や松林など身近な里山、生物多様性の保全再生を図るため、山ぎわを伐採し鳥獣の出没を抑制する緩衝帯整備、竹林整備をする中で竹林を使ったメンマなどの加工品の製造・自然素材、和ハーブ等の野生植物の活用など、里山の適切な管理を推進します。」のところ、一文でできていて長い。分けた方がよい。	ご指摘を受け、 「杉林や竹林など身近な里山や生物多様性の保全再生を図るため、森林の適切な管理を行うことが重要です。あわせて鳥獣被害防止対策として出没を抑制するため、山ぎわの雑木を伐採し、緩衝帯を整備します。また、竹林を整備した際に採取した幼竹を使っのメンマ、和ハーブなどの野生植物を加工するなど、多様な地域資源を活用しながら里山の適切な管理に努めます。」に修正します。
63	P42 2(2) 里山の保全再生	パブリック・コメント (60代)	「荒廃した竹林を使ったメンマなどの加工品の製造・自然素材、和ハーブ等の野生植物の活用など、里山の適切な管理を推進します。」のところ、竹林を竹にしてはどうか。	ご指摘のとおり修正いたします。 ただし、メンマ用の竹は、幼竹を使用しているため、幼竹とさせていただきます。
64	P42 2(4) 豊かな自然環境を通した学習の推進	議会	「今後はさらに、この生物多様性確保の視点に加え、地球温暖化防止効果についても併せて訴求していきます。」のところ、「地球温暖化防止対策についての学習も推進していきます。」	ご指摘のとおり修正いたします。

No	該当する箇所	意見徴収方法	意見の要旨	越前市の回答
65	全体を通して	パブリック・コメント (20代)	食育や地域のことについてわからない人にも伝わるよう、もう少しわかりやすい内容にした方が伝わる。	本計画は、各界各層からのご意見をいただき改定しております。正確性を期すため、一定の用語使用はやむをえませんが、専門用語には注釈を記すなど工夫いたします。
66	全体を通して	パブリック・コメント (20代)	誰に対して伝えるために作成した資料なのか。越前市役所内職員に対しての資料ならば問題ないが、予備知識がない地域の者にはかなり難しい。	本計画は、各界各層からご意見をいただき改定を進めております。正確性を期すためにも一定の用語使用はやむをえませんが、専門用語には注釈を記すなど工夫いたします。(再掲)
67	全体を通して	パブリック・コメント (70代)	カタカナ言葉に「日本語」と「日本語の説明」をつけてください。 SDGs フードマイレージ ウェブサイト Jクレジット オーバーツーリズム サステナブルツーリズム	注釈を付記します。
68	全体を通して	パブリック・コメント (50代)	現在の「食と農の創造ビジョン」という名称は既に定着しているので、今の名称のままでいいのではないか。	審議会でも同様に特に名称変更のご意見はありませんでしたので、現行の名称で考えています。
69	全体を通して	パブリック・コメント (40代)	「みらい」という言葉はとてもいいと思うが、他の計画などにもよく使用されている印象がある。今の名称の方が、あまり聞かないような気がするので、このままでいいのでは。	審議会でも同様に特に名称変更のご意見はありませんでしたので、現行の名称で考えています。(再掲)
70	全体を通して	第2回ワークショップ (令和6年12月3日) 武生地区営農協議会	もっともな意見ばかりであり、特段の異論はない。	ご賛同ありがとうございます。